

## 日本科学者会議第16回総合学術研究集会（東京）

### 2nd Circular

開催日：2006年12月1日（金）～3日（日）

会場：明治大学・一橋大学

テーマ：諸科学・技術の到達点と国民生活

～平和と生活向上のため科学はいま何を問われているか～

### 日本科学者会議第16回総合学術研究集会 2nd Circular 発行にあたって

全国の会員のみなさん

日本科学者会議第16回総合学術研究集会開催の呼びかけ（1st Circular 2月1日発行）をみなさんにお届けしてから、はや3ヶ月が経過しました。その間、みなさんの創意ある熱心な取り組みと協力により、28分科会の設置や市民参加の諸企画が実行委員会に寄せられ、また、プレシンポジウム・企画も進められています。テーマ「諸科学・技術の到達点と国民生活～平和と生活向上のため科学はいま何を問われているか～」にふさわしい発表と論議が期待され、待ち遠しく、胸のふくらむ思いがいたします。

これまでに運輸関係や生産現場等でさまざまな事故があとを断ちませんでした。この間、新たに「ゆりかもめ」車輪脱落事故、コスモ石油製油所（千葉県市原市）爆発事故、JR東・線路隆起問題などの人命にかかわる重大事故が生じております。

新自由主義の見本といえる小泉「構造改革」のもとで、貧困と格差の広がりは急速に進んでいます。小泉「構造改革」がもたらす弱肉強食・優勝劣敗の種々の格差拡大の実態にメスを入れ、抜本的な改革をはかることが急務となっています。

実行委員会は、事故問題、格差社会、耐震偽装問題、都市再開発問題などを、これまでに寄せられた分科会においても積極的に取りあげてを希望します。さらには、これらの諸問題で新たな分科会の設置も希望しております。実行委員会としても努力を重ねてまいる所存ですので、会員のみなさんにはいっそうご尽力くださることをお願い申し上げます。

沖縄市と岩国市の両市長選挙において、米軍基地再編強化と住民への負担押しつけにたいする明確な「ノー」の意思が示されました。会員のみなさんのお働きも大きかったと思われまます。自らの専門分野の発展に尽力するとともに、広範な人々の願いにそってさまざまな運動に参加し、科学的理論と知見とをもって不合理と闘い、運動に貢献していくことは日本科学者会議に結集する研究者・技術者の願いでもあります。

16総学の成功への取り組みは、そのような活動の推進とともに科学・技術の発展のおおもとを築いていくことでもあると考えます。大きな志と希望をもって、16総学の成功のため力をそそぎましょう。

2006年4月25日 実行委員長 長田好弘

## 1. 開催日程：

|          | 会 場                       | 時 間 帯                      | 内 容                        |
|----------|---------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 12月1日(金) | 明治大学・<br>リバーサイド<br>(御茶ノ水) | 14:00～<br>15:00～17:30<br>夜 | 受付開始<br>全体集会・特別講演<br>各種交流会 |
| 12月2日(土) | 一橋大学・<br>東キャンパス<br>(国立)   | 9:30～12:30                 | 分科会                        |
|          |                           | 13:30～18:00                | 分科会                        |
| 12月3日(日) |                           | 18:30～                     | 懇親会                        |
|          |                           | 9:30～12:30                 | 分科会                        |
|          |                           | 13:30～16:00                | 分科会・閉会集会                   |

注：12月1日13:00より、50人規模の教室2つを確保してあります。委員会などご利用の要望があれば実行委員会までご連絡ください。

## 2. 参加費・予稿集代：

|             | 種 別  | 参 加 費         | 予 稿 集              |
|-------------|------|---------------|--------------------|
| 会 員         | 事前登録 | 3,000円(全日)    | 予稿集代 1,000円<br>を含む |
|             | 当日参加 | 3,500円(全日)    |                    |
| 院 生(会員&非会員) |      | 1,500円(全日)    |                    |
| 非会員         | 一般   | 1,000円(一日あたり) | 予稿集代 1,000円        |
|             | 学生   | 無料            |                    |

## 3. 28分科会の設置と分科会追加設置の募集：

実行委員会は、応募された分科会設置の趣旨を尊重したうえで、密接に関連する分野・必要な分野について調整・依頼を行い、28分科会を設置しました。分科会の分類はせず、関連性の強いものを並べて順次配列しました。

なお、分科会追加設置を募集しますが、時間的に実行委員会による論文公募ができませんので、コーディネーター・連絡責任者が募集を行い、分科会成立の目的を得てから、応募して下さい。希望者は、分科会名・趣旨(200字)・コーディネーター・連絡責任者を明記のうえ実行委員会まで申込み下さい(締切り：7月31日)。

## 4. 論文発表募集：

論文発表申込は、発表者氏名・連絡先(住所、電話・FAX、E-mail)・発表希望分科会・論文題名・論文概要(200～400字)を記入して別紙申込用紙(16総学ホームページ<http://www.jsa-t.jp/16sougaku/16sougaku.htm> 上にも有り)にて実行委員会まで申込み下さい。E-mail、FAX、郵送で受け付けます。応募者は同じ申込を、E-mail、FAXで分科会連絡責任者にも行って下さい。受付後1週間以内に受付確認を連絡します。論文原稿書式は、後日郵送します。

申込先：日本科学者会議第16回総合学術研究集会実行委員会(封筒に“論文応募”と表記)

〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-15 茶州ビル9階

電話(03)3812-1472 FAX(03)3813-2363; E-mail: 16sougaku@jsa.gr.jp

論文発表申込の締切日： 7月31日(月)

論文原稿の締切日： 9月25日(月)

## 5. 「お国自慢セッション」の募集：

「お国自慢セッション」に関して、各支部の創意ある参加を期待します。申込用紙（16 総学ホームページ <http://www.jsa-t.jp/16sougaku/16sougaku.htm> 上に有り）にもとづき申込んで下さい。参加状況により、講演・報告・歓談・ポスターセッション・その他の展示のためのフロアの準備を行います。

- (1) 16 総学の目的のひとつに、各支部参加と活動の交流があります。したがって「お国自慢セッション」は、各支部のさまざまな「交流の場」と考えています。
- (2) 各支部の創立、伝統、現在の活動の紹介などを歓迎します。各支部が活動する学園、地域の学問・研究・教育の問題点やそこでの活動の前進面や教訓などの紹介。
- (3) 各支部が活動する自治体の政治情勢と支部独自の活動および他団体との連帯の教訓などの紹介を歓迎します。「憲法フォーラム」や「9 条科学者の会」などの活動、住民運動などでの活動の紹介。さまざまな活動での各階層・諸団体の連帯を進める“接着剤”（統一と連帯）の活動など。
- (4) 名勝史跡などの紹介を歓迎します。各支部・分会が“訪問団”を組織して現地支部と交流したくなるような紹介。（特産の紹介歓迎、地酒持ち込み・試飲も！）

### これまでの申し込みの事例：

【1】東京支部（検討中）：支部活動の紹介（「支部つうしん」、分会機関誌などの紹介。個人会員・院生・留学生の活動。組織強化拡大・分会活動活性化・分会再建の教訓、その他。）

【2】愛知支部：「東海地方の新しい温泉・大深度非火山性温泉を楽しむ」（講演者：宮崎哲郎・名古屋大学名誉教授）；掘削技術の進歩に伴い、深度が 1,000m を越える温泉が火山とは無関係な地域に誕生しつつある。63 年に木曾川河口で発見された長島温泉が大深度非火山性温泉の端緒となった。大深度温泉と火山性温泉の泉質の違いだけでなく、日帰り温泉という新しい温泉の楽しみ方、またその地域性についても述べる。

申込の締切日： 9 月 25 日（月）

## 6. 市民参加の諸企画：

- (1) 映画と対話の夕べ 実行責任者 増田正人（東京支部）  
11 月上旬と下旬に、一橋大学または国立駅周辺で、「人間の壁」（山本薩夫監督、香川京子）、「どぶ川学級」（橘祐典監督、山本亘）を上映予定。山本亘さんらを招いて、参加者とともに語りあう場をもちたいと考えています。
- (2) 日中友好と歴史認識のための展示 実行責任者 長沼仁（東京支部） 撫順戦犯管理所（敗戦後、旧日本軍の将兵たち約 1000 人を収容した施設）、平頂山事件（1932 年 9 月 16 日、日本軍は平頂山の住民 3000 人あまりを虐殺）など展示。小泉首相の靖国参拝や教科書問題など、歴史認識を問われる出来事が多く起きています。どのようなことを日本軍はアジア諸国でやったのか。私たちはそれらの事実とどのように向かい合うべきなのか。日本の平和を守ってきた 9 条を変え、再び戦争のできる国にする動きが強まっているなかで、この二つの問いかけが私たちになされています。「撫順」を過去と現在そして未来を結ぶ大きな一つのテーマとして提起していきたいと思えます。
- (3) 核兵器廃絶・核戦争阻止・被爆者援護・連帯のための展示 実行責任者 松下和輝（東京支部）
- (4) 平和のためのコンサート 実行責任者 荒井成彦（東京支部） 小泉「改革」という名の新自由主義の激流のなかで、安心感・潤い・豊かな人間性を求める演奏と語らいのひとつきを過ごしたいと希望しております。日時・会場・内容は検討中です。

## 7. 16 総学記念囲碁大会：実行責任者 小嶋茂稔（東京支部）

16 総学終了後 12 月 3 日夕方から「16 総学記念囲碁大会」を開催します。会費制で、上位入賞者には記念品を贈呈する予定です。会場は一橋大学のある国立市周辺で、会食や宿泊も出来る場所を検討中です。

## 8. 16 総学プレ企画：

各ブロック・支部・分会主催の 16 総学プレ企画を推奨します。企画等を実行委員会へお寄せ下さい。ホームページに掲載します。届いた企画は以下の通り。

【1】JSA16 総学プレシンポジウム（日中友好交流の場）& 武蔵野通研分会第 45 回分会シンポジウム（2006 年 3 月 11 日（土）、於羽村市玉川苑 主催：武蔵野通研分会）第一部：武蔵野通研分会会員による恒例の研究発表（5 件） 第二部：記念講演・小嶋茂稔（学芸大学）「近現代日本の中国史理解と今日の課題」 第三部：院生・留学生を交えた懇親会

【2】16 総学プレシンポジウム「第 40 回知的所有権ミニシンポジウム」（2006 年 3 月 25 日（土）、於ピアンタ本郷 主催：日本科学者会議東京支部特許庁分会、知的財産研究会；共催：日本科学者会議東京支部） 記念講演：長田好弘「科学技術の進歩と知的財産権の課題」 報告：「ミニシンポ 40 回の歩みと今後の運営」（事務局） 懇親会

【3】16 総学プレシンポジウム「日米安保をなくしアジアの平和を展望する」（4 月 30 日（日）、於クレオ大阪東、主催：日本科学者会議平和問題研究委員会（プレシンポジウム）・日本科学者会議大阪支部（憲法フォーラム） 岩国住民投票報告ビデオ、セッション討論：「米軍基地再編の危険性と矛盾」「日米安保とアメリカの世界戦略の危険な役割」「アジアの平和と日本国憲法」「東アジア共同体と日本の針路」

【4】「現代帝国主義とナショナリズムの台頭 - 『日本の科学者』2006 年 3 月号、同名特集を素材に」：5 月 1 日（月）17：00～19：00、中央大学多摩キャンパス・2 号館・21061 号室、中央大学教員分会・院生分会共催

【5】武蔵野通研分会創立 40 周年記念集会：2006 年 9 月 2 日（土）、於武蔵野スイングホール、記念講演「情報通信技術と平和・国民生活」（仮題、講師：長田好弘）を予定

## 9. 保育室の設置：

保育室を希望される方は、実行委員会までご相談ください（7 月 31 日まで）。状況に応じた保育室の設置を検討します。

## 10. 宿泊について：

都心のホテルについては、参加者各自で確保して下さい。一橋大学（JR 中央線国立駅）近辺の宿泊は、立川・国分寺・武蔵境の駅から 0～5 分のホテルをピックアップしました。必要な方は、各自ご予約下さい。値段はシングルの基本料金で、¥6,500～¥9,450 です。国立駅 立川駅は一駅 4 分、国立駅 国分寺駅は 5 分、国立駅 武蔵境駅は 12 分です。

|     |   |
|-----|---|
| 立川  | 立川グランドホテル(042-525-1121),立川リージェントホテル(042-522-1133)<br>立川ワシントンホテル(042-548-4111),昭和ホテル(042-524-2468) |
| 国分寺 | ホテルメッツ国分寺(042-328-6111),ビジネスホテルダイワ(042-324-5221)<br>ビジネスホテル千成ホテル(042-325-5588)                    |
| 武蔵境 | シティテル武蔵境(0422-33-5111),ホテツメッツ武蔵境(0422-32-5111)  |

## 11. 分科会：

### **【1】分科会名：憲法九条の過去・現在・未来**

コーディネーター：浦田一郎（東京支部）

連絡責任者：浦田一郎 <cj00212@srv.cc.hit-u.ac.jp>

設置趣旨：改憲論議が進行中である。その内容は全面化しているが、その中心は九条改憲論である。そこで九条改憲論に関して、シンポジウムを開きたい。半日の企画の中で、3本の報告を立て、フロアーを含めて討論したいと考えている。3本の報告については、以下のものを考えている。日本国憲法の前史を踏まえて、平和主義の意義を明らかにする。改憲論議の歴史と現状を批判的に分析する。世界と日本の平和運動における日本国憲法九条の意味を検討し、展望を模索する。

### **【2】分科会名：憲法・教育基本法と教育実践**

コーディネーター：岩田好宏（教育実践と教育基本法研究委員会代表）

連絡責任者：岩田好宏 <QWR04020@nifty.ne.jp>

設置趣旨：アジア太平洋戦争後の日本の教育は、憲法・教育基本法を規範に進められるべきものであったが、そのとおりにはされず、またそれに反するものとなり、その結果として様々な教育上の問題が発生したが、それを根拠に憲法・教育基本法の改悪をもくろみ、戦前の反国民的教育に戻そうとしている。一方、そうした現状に危機感をもって子どもの側に立って民主的な教育を進めようと考え、実践してきた私たちは、あらためて一つひとつの教育実践、子どものもつ問題を憲法・教育基本法を指針として具体的に取り組む研究と実践を一層強力に進めねばならない。こうした趣旨に立って、憲法・教育基本法と教育実践について理論的に、また実践に繋がる形において研究を深めたい。

### **【3】分科会名：日米安保をなくしアジアの平和を展望する**

セッション1．米軍基地再編の危険性と矛盾

セッション2．日米安保とアメリカの世界戦略の危険な役割

セッション3．アジアの平和と日本国憲法

セッション4．東アジア共同体と日本の針路

コーディネーター：阿部一雅・安部愷三・金子 勝・亀山統一・木村 朗・今野 宏・澤田昭二  
・中川益夫

連絡責任者：阿部一雅 <jsaabe@mail.goo.ne.jp>

設置趣旨：いま日本はアメリカの世界戦略に加担し、世界平和推進の側から破壊の側に回るうとしている。憲法9条を変え軍隊を持つことは、単に他の軍隊保有国の仲間入りをすることではない。世界は今、急速に戦争のない世界を求め始めており、それを妨害しているのがアメリカである。そのアメリカに軍事的協力をすることは、世界から歓迎も尊敬もされない。今こそ日本の進路について語り合い広めていきたい。

### **【4】分科会名：歴史教科書問題と今日のアジア認識・歴史認識**

コーディネーター：小嶋茂稔

連絡責任者：小嶋茂稔 <kakoji@da2.so-net.ne.jp>

設置趣旨：新しい歴史教科書をつくる会（以下「つくる会」）が作成した中学校歴史教科書は

2006年4月から公立中学校でも使用されるようになった。昨年夏の杉並区での採択に関わる報道を見ると比較的若い世代の中に「つくる会」教科書を受け容れる層が存在することが分かる。本分科会では「つくる会」教科書の問題点の検討にあわせ、「つくる会」教科書を支える今日の日本での歴史認識やアジア認識の問題点についても考えていくこととしたい。

### 【5】分科会名：護憲派のための軍事入門・研究

コーディネーター：山田 朗（明治大学）

連絡責任者：山田 朗 <VYW00612@nifty.ne.jp>

設置趣旨：護憲派の運動に必須の軍事知識・データの提供。変貌する自衛隊の実態の解明。日本の軍備拡張の実態の解明。報告案：1.戦争遂行のための3要素＝ハード・システム・ソフトの関係性。

軍事を捉えるための視点、軍事の批判的分析の必要性；2.戦後史のなかの安保と自衛隊。陸・海・空それぞれの再軍備のプロセス、アメリカの軍事戦略・安保条約と自衛隊（米軍再編問題も含む）；3.変貌する現代日本の軍勢力。戦力としての自衛隊の世界的位置（軍事費・戦力ランク）、現代日本の軍勢力の二重の歪み・冷戦型軍勢力（対ソ戦・対潜水艦戦偏重）・遠征型軍勢力（湾岸戦争以来肥大化）；4.現代日本のハードの特質（陸・海・空の代表的ハードの分析）；5.現代日本の軍備拡張；新型イーゼス艦、弾道ミサイル防衛構想（BMD）の特質と危険性。

一応、上記5本の報告を中心に組み立てたいが、護憲運動との関連で必要な事柄をさらに組み込みたい。また、報告者の人選の都合で、いくつかの問題の統合もありうる。

### 【6】分科会名：原子力空母の横須賀母港化に関連する諸問題

コーディネーター：野口邦和（日本大学）

連絡責任者：野口邦和 <noguchi-k@dent.nihon-u.ac.jp>

設置趣旨：2005年10月、日米両国政府は、米海軍横須賀基地を母港とする2008年に退役する通常型空母キティホークの後継として、ニミッツ級原子力空母を配備すると発表した。原子力空母の安全性が懸念されるが、搭載する原子炉に関する情報や、そもそもなぜ横須賀基地を原子力空母の母港としなければならないのか、日米両国政府は日本国民に対する説明責任をまったく果たしていない。日米両国政府の合意を受け入れるといわんばかりの姿勢である。われわれにわかっていることは、横須賀基地が原子力空母の母港となれば、首都圏近くの海をこれまで以上に原子力艦船が行き交い、停泊するという事実である。本分科会は、日米両国政府の合意内容とはどのようなものか、原子力空母とはどのような艦船か、原子力空母の危険性とはどのようなものか、外国原子力艦船の寄港・母港化の法的諸問題について検討する。

### 【7】分科会名：気候変動に対処する科学者、NGO、市民の課題

コーディネーター：岩本智之（大阪）

連絡責任者：岩本智之 <ghincian39@yhoo.co.jp>

設置趣旨：産業革命以来、人類が化石燃料の使用等により排出してきた温室効果ガスの濃度は、地球規模で気候を変化させつつあり、そのため人間社会そのものの存立をも危機にさらすに至っている。一方、気候変動問題は科学研究の成果が国際社会を動かした貴重な例であり、それだけに科学者は正確な情報を提供し、方向を指し示す責務を有する。京都議定書はようやく発効し、その実施のルールは合意されたが、将来の気候変動の影響の緩和は国際社会全体の長期にわたる課題であり、それを首尾よく達成するためには、長期気候目標（温室効果ガスの世界的排出量や平均気温の上昇幅を中・長期的にどの範囲内に抑えるのか）をめぐるグローバルな合意の形成が欠かせない。本分科会では、IPCCの第4次報告を控えて最新情報レビューしつつ、科学者とNGO、市民の課題を探る。

### 【8】分科会名：世界と日本のエネルギー問題

コーディネーター：館野 淳（中央大学・化学）・本島 勲

連絡責任者：館野 淳 <eng-tat@parkcity.ne.jp>

設置趣旨：大量の化石燃料の消費という形でのエネルギー利用は現代文明を支える柱の一つである。しかしながらこうしたエネルギー供給 消費の構造は、資源、環境、経済などさまざまな理由で危機に瀕している。これに代わるべきエネルギー供給手段は見出されていないし、コンセンサスもできていない。科学者会議として真剣に取り組むべきテーマのひとつであると考え。

### 【9】分科会名：改憲論と環境権

コーディネーター：近藤 真・北山雅昭

連絡責任者：近藤 真 <mkondo@cc.gifu-u.ac.jp>

設置趣旨：昨今、日本国憲法を改正せよとの議論がさかんに行われ、その理由の一つに環境権がないからとの主張がなされている。このような主張や提案の問題点を憲法学説、環境法制、判例などから探ると共に、実効性ある環境権の議論を行う。

### 【10】分科会名：廃棄物・土壌汚染

コーディネーター：畑 明郎 佐藤克春

連絡責任者：畑 明郎 <RXC01325@nifty.ne.jp>

設置趣旨：産業廃棄物の不法投棄事件、廃棄物リサイクルをめぐる問題、廃棄物処理施設建設をめぐる裁判、工場跡地などの土壌汚染問題など、廃棄物や土壌汚染の問題が全国的に頻発しており、それらの問題分析と解決策を探る。

### 【11】分科会名：災害から暮らしを守るには

コーディネーター：大屋鍾吾・中山俊雄・川合将文・坂巻幸雄（災害問題研究委員会・東京支部）

連絡責任者：坂巻幸雄 <DZZ03766@nifty.ne.jp>

設置趣旨：大都市への人口集中と地方の過疎化で、不時の災害に際して暮らしの安全を守ることが難しくなっています。政府は関係研究機関の廃止や格下げ、専門職の減員を進めながら、災害対応を口実に、有事立法そのものの「国民保護法」を制定しました。この分科会では、災害委と民主団体・市民が協力し合って進めてきた防災・救援・復興の活動経験を交流・分析し、問題点と展望を明らかにします。ぜひご参加を。一般の方も大歓迎です。

### 【12】分科会名：公共事業のあり方を考える

コーディネーター：橋本良仁（東京支部）

連絡責任者：橋本良仁 <cap-mt.takao@nifty.com>

設置趣旨：21世紀に入ってもなお、全国各地で20世紀型の大型公共事業が強行されている。税金を無駄遣いし、美しい山河を破壊する公共事業。具体的な事例を検証しながら、そのあり方を考え政策提起をしたい。

### 【13】分科会名：グローバリゼーションの進展と岐路に立つ日本

コーディネーター：増田正人（東京支部、法政大学）・本田浩邦（獨協大学）

連絡責任者：増田正人 <mamasuda@mt.tama.hosei.ac.jp>

設置趣旨：アメリカン・グローバリゼーションといわれるグローバル化の急激な進行のもとで、

世界経済はその姿を大きく変えてきている。グローバル化の進展は、各国の対外関係だけでなく、新自由主義的な経済政策の追求ともあいまって、世界各国で経済の不安定化、不均衡化、富の不平等化を生んでいる。この分科会では、グローバル化を進めてきたアメリカの抱える問題を検討するとともに、グローバル化と地域主義の同時進行という事態の経済的背景を検討する。その上で、東アジアにおける地域主義の可能性を検討し、アメリカに過度に依存しない新たな可能性を探ることを目的にする。報告は全部で3人。アメリカ経済について1つ、グローバル化と地域主義の同時進行の問題について1つ、東アジアについて1つを予定。

#### **【14】分科会名：地域中小企業の持続的発展の課題**

コーディネーター：吉田敬一・斉藤 正（駒澤大学）・芳賀 寛・八幡一秀（中央大学・東京支部）

連絡責任者：八幡一秀 <[kyahata@tamacc.chuo-u.ac.jp](mailto:kyahata@tamacc.chuo-u.ac.jp)>

設置趣旨：グローバル化の中で中小企業が苦しんでいます。公共事業予算も削られ、末端の中小業者ほど仕事がありません。駅前や住宅地の商店街もシャッター通りといわれるほど疲弊し、地域住民は日々の買い物にも困っています。21世紀の地域社会・地域経済を担うべき中小企業・中小業者の持続的発展が可能かどうか、中小企業・地域経済・金融・統計などの各分野から探っていきます。妙案をお持ちの方も、そうでない方も是非ご参加ください。

#### **【15】分科会名：食と農の政策科学**

コーディネーター：宮村光重（食糧問題研究委員会委員長）

連絡責任者：宮村光重 <Fax:03-3488-3758>

設置趣旨：BSE、鳥インフルエンザ、農薬の残留など、食の不安と不信はつきない。WTOで食糧主権や農業・文化の多様性がないがしろにされる。農政では、食料自給率を高め、国産品を増やすべきなのに、反対方向で、多くの生産者に農業から手を引かせる。こうした現状を科学者の目で捉え、今の政策をはねかえし、現状打開のもうひとつの道を歩む運動に役立つ政策提起が求められる。いくつかの側面から、その課題に迫りたい。

#### **【16】分科会名：検証「IT新改革戦略」 - 社会進歩と人々の幸福感に寄与できるか**

コーディネーター：長田好弘・松永光司

連絡責任者：松永光司 <[matsunaga\\_mitsushi@hotmail.com](mailto:matsunaga_mitsushi@hotmail.com)>

設置趣旨：IT戦略本部（本部長小泉首相）は、この5年間で「日本は最先端のIT国家になった」とし、今後は「ITのもつ構造改革力を生かした日本社会の変革」をおこなうとして、「IT新改革戦略」を策定(06年1月)した。これが果たして社会進歩と人々の幸福感に寄与できるのかを、国民生活の諸相と科学・技術の進歩に照らして多角的に（構造改革、行政、労働、流通、教育、医療・障害者支援、デジタルデバインド、情報セキュリティ、通信確保、研究開発等）検証し、現状批判と提言が重要となっている。

#### **【17】分科会名：検証「知的財産立国」**

コーディネーター：野村康秀

連絡責任者：野村康秀 <[jsachizai@hotmail.co.jp](mailto:jsachizai@hotmail.co.jp)>

設置趣旨：特許権や著作権がトップニュースとなることも珍しくない。2003年3月の知的財産基本法施行を期に、大学には知的財産本部やTLOが整備され、特許出願増加が強制され、大学が特許侵害で訴えられる時代となっている。他方、「利益相反」が具体化し、企業でも大学

でも職務発明の係争が増加している。世界と国民生活向上を目指す立場から、イノベーションの要に位置づけられる知的財産のあり方、人類の発明と創作の成果を私的な財産権とする意義と限界を解明する。

### **【18】分科会名：第3期科学技術基本計画をめぐって**

コーディネーター：稲生 勝

連絡責任者：稲生 勝 <[inoo@cc.gifu-u.ac.jp](mailto:inoo@cc.gifu-u.ac.jp)>

設置趣旨：2006年度から第3期科学技術基本計画が始まる。これは1995年に制定された科学技術基本法に基づくもので、すでに第1期、第2期の基本計画が実施された。その間、国立研究機関、国立大学の法人化など、大変動があった。本分科会では、1995年の科学技術基本法制定以来の第1期、第2期の科学技術基本計画を批判的に振り返ったうえで、第3期科学技術基本計画の問題点を検討し、明らかにしたい。

### **【19】分科会名：21世紀の科学・技術は如何に在るべきか**

コーディネーター：榊原道夫・藤田秀雄

連絡責任者：榊原道夫 <[sakakibara@star.odn.ne.jp](mailto:sakakibara@star.odn.ne.jp)>

設置趣旨：21世紀は戦争の世紀だと云われている。その中で最も特徴的な事は、最新の科学技術が戦争の道具として利用された事である。21世紀を、戦争をしない、平和な世紀にする為には、大胆な発想と提言が必要である。例えば、科学者、技術者の発明、発見、工夫による「生産物」は国際的な「学術管理機構」で管理し、人類の平和目的のみに使用する。さいわい、JSAは多彩な学術分野の集まり、思い切った提案や意見を歓迎します。

### **【20】分科会名：21世紀の大学像と私立大学の現状と改革**

コーディネーター：五十子満大（東京支部・元東京都立大学）・一井 昭（東京支部・中央大学）

連絡責任者：一井 昭 <[akichii@tamacc.chuo-u.ac.jp](mailto:akichii@tamacc.chuo-u.ac.jp)>

設置趣旨：全国委員会との連携のもとに、現在進行中の国公私立大学の危機の淵源を我が国の高等教育政策に一貫して流れる公教育理念の欠如と受益者負担主義の押しつけ、大学自治の改変に求める。とくに、本分科会は中教審答申（05.1）以後の私立大学をめぐる経営危機の実態を明らかにし、研究・教育（競争的資金やカリキュラム）の動向を分析するとともに、対置すべき基本的政策とその実現のための具体的課題の検討を深めたい。

### **【21】分科会名：大学・研究機関の法人化と労組を含む各種団体の役割**

コーディネーター：鈴木憲太郎（茨城支部）・大西 広（京都支部）

連絡責任者：鈴木憲太郎 <[ksuzuki@ffpri.affrc.go.jp](mailto:ksuzuki@ffpri.affrc.go.jp)>

設置趣旨：国研、国立大学が法人化して、公立大学等も嵐の中にある。1期終了時評価において、各年度機関評価は考慮されず、消防研が廃止され国研の機関統合も数多く行われた。大学では、学長裁量といいながら、5%人員削減が機械的に適用されるなど高等教育の破綻は目前で、今後、生き残りとして再編すら自主提案させられる状況にある。こうした現状打破のために、労働組合やJSAを含む各種団体が果たすべき役割について解明したい。

### **【22】分科会名：研究者・技術者の権利問題分科会**

コーディネーター： 菊池重秋・小野塚春吉・秋山昌文

連絡先責任者：秋山昌文 <[kenri-sougaku@akiyama.to](mailto:kenri-sougaku@akiyama.to)>

設置趣旨：日本科学者会議は、現在、来年5月の大会での採択を目指し、研究者の「権利・地位宣言」「倫理綱領」の検討を進めています。第一部はこの「権利・地位宣言」「倫理綱領」についての討論、第二部は、法人化された研究機関や大学、競争至上主義が一層強まっている民間企業等の権利侵害、権利闘争の現状などについての発表、交流を予定しています（なお最新の「宣言」「倫理綱領」はJSAのホームページに載せています）。

### 【23】分科会名：民間企業技術者・研究者の現状

コーディネーター：石垣一期・秋村 理

連絡責任者：秋山昌文 <[minkan-sougaku@akiyama.to](mailto:minkan-sougaku@akiyama.to)>

設置趣旨：民間企業の技術者研究者の仕事は、製品開発、生産、サービス、廃棄物の処分、情報処理システムの管理など企業活動のあらゆる面にかかわっています。顕著な権利侵害や不祥事のない普通の職場でも、企業の社会的責任や、労働形態と関係した、それぞれの職場に特有の問題があると思われます。この分科会では、いくつかの職場から技術者・研究者の仕事の現状について出し合い、現在の課題を理解する場にしたいと考えます。

### 【24】分科会名：女性研究者の今を考える - 真の男女共同参画をめざして

コーディネーター：石渡真理子（女性研究者技術者委員会、東京支部女性会員連絡会）

連絡責任者：石渡真理子 <[i-mariko@jcom.home.ne.jp](mailto:i-mariko@jcom.home.ne.jp)>

設置趣旨：「男女共同参画基本計画（第2次）」（内閣府、05年12月）では、「女性研究者の採用枠拡大、育児などとの両立支援」が謳われるなど、日本の女性研究者支援策は進んでいるかのように見える。しかし、高等教育の卒業者に占める女性の割合はOECD 30カ国中最下位（2004.9）であり、これは女性研究者をめぐる厳しい状況が続いていることを物語っている。本分科会ではこうした現状を明らかにし、さらにその背景にも迫ることを通して、今後への展望について参加者と共に考えていきたい。

### 【25】分科会名：延命治療について考える 人工呼吸器の取り外しは許されるか

コーディネーター：黒須三恵（生命倫理研究委員会）

連絡責任者：黒須三恵 <[16sougaku@jsa.gr.jp](mailto:16sougaku@jsa.gr.jp)>

設置趣旨：去る3月、医師が人工呼吸器を外し患者を死亡させたとの報道がなされた。本人意思による延命措置の中止は尊厳死なのか、それとも死ぬ権利（自殺権）を認めることなのか。そもそも中止は認められるのか。人工呼吸器が必要な難病患者などは、生の否定につながると主張する。全ての人が、尊厳をもって生を全うできるためにはどうしたらよいか。延命治療について参加者とともに様々な視点から議論したい。

### 【26】分科会名：薬とビジネス 薬が病気を作る！？

コーディネーター：牧野忠康（医療と薬害問題研究委員会）

連絡責任者：牧野忠康 <[makino@n-fukushi.ac.jp](mailto:makino@n-fukushi.ac.jp)>

設置趣旨：医薬品の開発・治験・許認可（生産）、販売（流通）、医療（消費）の過程で、国民・患者の安心・安全が確保されていないのはなぜか？がリサーチ・クエッション。生産の段階では「利益相反」の問題、処方薬の患者・消費者への直接広告（DTCA）の問題、製薬企業の政治献金の問題、の存在にある、が仮説。この検証と、具体的な事例として、薬

害肝炎の被害者支援と肝炎根絶のあり方、を提起し討論をおこなうのが課題。

**【27】分科会名：現代日本社会の病理**

コーディネーター：北村 実

連絡責任者：北村 実 <16sougaku@jsa.gr.jp>

設置趣旨：現代日本社会はあきらかに病んでいる。新自由主義政策の推進によって、経済格差は急速に拡大し、社会は勝ち組と負け組とに両極分化しつつある。しかも、この両極分化を増幅させている最大のが学校教育であって、経済力の差が学力に反映し、人生行路に希望を見出せない若者たちを生み出し、その一部を非行と犯罪へと追いやっている。現代日本社会の病理を多面的に検討し、その病巣をえぐりだし、克服の方途を探り出したい。

**【28】分科会名：科学的人間論 最近の情報技術と新自由主義はどんな影響を与えたか**

コーディネーター：荒井成彦（東京支部）

連絡責任者：荒井成彦 <FAX:042-301-0847>

設置趣旨：ヒトは自己家畜化・自己養殖化の道を辿って進化してきた。その結果、自然から次第に遊離することになった。最近の情報化技術を中心としたテクノロジー文化は、人類に大きな便利さと同時に、ヴァーチャル・リアリティの世界に人間を導く結果をもたらしつつある。一方新自由主義は、人々を過酷な競争に巻き込み、人間性を喪失させている。このテクノロジー文化と新自由主義から、人間を回復する道を探りたい。

\*\*\*\*\*

**< 日本科学者会議第 16 回総合学術研究集会実行委員会 >**

実行委員長：長田好弘（東京支部代表幹事），事務局長：米田貢（東京支部事務局長），事務局次長：小嶋茂稔（東京支部常任幹事），中野貞彦（東京支部），庶務担当：山川賢次（東京支部常任幹事），委員：五十子満大（全国事務局長），伊藤達夫（全国研究企画部長），松井安俊（全国総務財政部長），一井昭（東京支部代表幹事），小河勉（東京支部常任幹事），河上茂（東京支部幹事），丹生淳郷（埼玉支部事務局長），増田正人（東京支部常任幹事），山田朗（東京支部），野口邦和（東京支部），岩佐茂（東京支部幹事），松下和輝（東京支部）

**16 総学のホームページ**

<http://www.jsa-t.jp/16sougaku/16sougaku.htm>

**日本科学者会議第 16 回総合学術研究集会実行委員会**

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9 階

電話 (03) 3812-1472 FAX (03) 3813-2363 ; E-mail : 16sougaku@jsa.gr.jp

**日本科学者会議東京支部**

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9 階

電話・FAX 兼用 (03) 3811-8281

## 第16回総合学術研究集会 論文発表申込用紙

2006年\_\_月\_\_日 ( 受付番号\_\_\_\_\_ )

1. 申込・発表者氏名

フリガナ： \_\_\_\_\_

2. 連絡先

a) 住所 〒 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_

b) 電話 ( \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ ) FAX ( \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ )

c) E-mail : \_\_\_\_\_

3. 発表を希望する分科会

番号 \_\_\_\_\_ 分科会名 \_\_\_\_\_

注：分科会【3】「日米安保をなくしアジアの平和を展望する」についてはセッション番号も記入のこと。

4. 論文題目

\_\_\_\_\_

5. 論文の概要 (200~400字)

注： 分科会連絡責任者にも、同じ申込書を E-mail か FAX で申込み下さい。  
申込後1週間経ても実行委員会より受領の返信がない場合には、連絡して下さい。  
この紙面をコピーしてお使い下さい。16総学ホームページにも有ります。